

【会議参加報告】



会議参加報告

◆画像の認識・理解シンポジウム MIRU 2002

山添大丈

ATR メディア情報科学研究所

画像の認識・理解シンポジウム (MIRU 2002) は 2002 年 7 月 30 日 (火) ~ 8 月 1 日 (木) の 3 日間、名古屋工業大学において開催された。MIRU2002 は画像の認識と理解に関する国内最大規模のシンポジウムであり、2 年ごとに開催されており今回で 6 回目である。

発表件数は Excellent Papers セッション 10 件、一般講演 49 件、ポスターセッション 78 件の計 137 件であった。また特別セッションとして、MIRU に関連するプロジェクトの紹介発表が 6 件と日本バーチャルリアリティ学会複合現実感研究委員会によるオーガナイズドセッション「複合現実感とビジョン技術」が行われた。また PRMU 若手プログラム 2002 も併催され、講演や討論会などが行われたようである。参加者数は 353 名で、どのセッションもほぼ満席といった状況であった。

発表は Excellent Papers セッションと MIRU 関連プロジェクト紹介セッションを除いて、全てのセッションは並列に行われたため、自分の興味のある分野の人物追跡や 3 次元復元などのセッションを中心に聴講した。

VR に関するセッションとしては、オーガナイズドセッションと一般講演「MR・CG への応用」が 2 セッションあった。オーガナイズドセッションでは、まず通信総合研究所の清川清氏による「複合現実型マルチユーザー・コラボレーション - ヒューマンコミュニケーションの視点から -」という発表があり、次に「Sensor-based vs. Vision-based, それとも Hybrid? - 仮想と現実の融合におけるビジョン技術の役割と期待 -」というタイトルで、

複合現実感における位置合わせ手法に関するパネル討論が行われた。

MIRU2002 の詳しいプログラム等については
<http://www.chino.it.okayama-u.ac.jp/MIRU02/>

◆ヒューマンインタフェース シンポジウム 2002

葛西香里

筑波大学

ヒューマンインタフェースシンポジウム 2002 が 9 月 1 日から 3 日間北海道大学の学術交流会館にて開催された。一般発表は 182 件、対話発表は 39 件で、500 人以上の参加者が集まった。筆者は都合上、全日程は参加できなかったため、参加したものについて簡単に紹介する。

大会初日の講習会では 3 つのコースがあり、筆者は「バーチャルリアリティの生体影響と評価手法」のコースに参加した。キー・ノートとして筑波大学の岩田教授が VR システムにおける生理的・心理的影響の評価法について具体例を上げて述べられ、VR システムを設計、運用する際に準拠すべきガイドライン策定に向けての方針についてまとめていた。その後、主に視覚システムの評価を中心とした 5 件の講演があり、会場からは聴覚システムの生体評価への問題提起が出るなど、活発に議論がなされていた。筆者は昨年と同大会で、歩行感覚呈示装置の生体への評価手法について論文発表を行っており、VR システムの生体への評価の重要性と難しさを改めて認識させられた。

一般発表は、人工現実感のセッションについては生理・心理、システム開発・評価、ハプティックインタ